

輸血検査室における ISO15189 アドバイスサービスの活用

◎藤野 匡¹⁾、燈明 奈緒¹⁾、廣田 佳奈¹⁾、宮岡 秀和¹⁾、大森 健彦¹⁾
独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター 臨床検査科¹⁾

【はじめに】

当院は救命救急センターを有す三次救急医療機関である。2015年にISO15189の認定を受け、品質マネジメントシステムを構築し、臨床へ安全でより質の高い医療を提供している。ISO15189の要求事項4.7には、アドバイスサービスが定義されており、当院ではアドバイスサービス資格を有する者がアドバイスサービススタッフとして、問い合わせに対応している。輸血検査室では、アドバイスサービスをもとに、臨床への周知、検査科要員への教育を行っている。今回、アドバイスサービスの内容や対策を分析し、臨床へのサービス向上に貢献出来ているか検証した。【方法】2015年から2022年問い合わせ件数486件（検査からのアドバイス167件含む）を職種別（医師・看護師）、問い合わせ内容別に集計した。【結果】問い合わせ件数の職種別内訳は、医師177件、看護師142件であった。医師の問い合わせ内容別内訳は、製剤関連62件、オーダー44件、検体採取28件、検査25件、運用16件、その他2件であった。製剤のオーダーに関する問い合わせが多く、HLA血小板やRh陰性の製剤など特殊な製剤に対する問い合わせであった。看護師の問い合わせ内容別内訳は、製剤関連85件、オーダー4件、検体採取14件、検査2件、運用35件、その他2件であった。投与ルートに関する内容や製剤の容量に関する問い合わせが多かった。【アドバイスサービスの対策】HLA血小板やRh陰性の製剤など特殊な製剤に対する問い合わせに時間外要員が対応できるように簡易マニュアルを作成し周知を実施した。製剤の容量に関する問い合わせに対し、製剤搬送BOXに容量と投与時間を記載したものを添付した。また、輸血療法委員会を通して看護師に周知した。【まとめ】定期的にアドバイスサービス記録簿を集計分析することで、臨床に周知が必要な内容が明確になり、サービスの向上に繋がっている。また、要員間で情報を共有し、その内容についての知識を深めるための教育訓練を実施することで臨床へのアドバイス技術が均一になり、向上している。時間外要員に対しても情報を提供することができ、対応に苦慮する状況が回避できている。ISO15189の要求事項4.7アドバイスサービスを活用することで、臨床へのサービス向上に寄与することができ、安全な輸血の提供に役立っていると考えられる。

独立行政法人 国立病院機構 名古屋医療センター
[TEL:052-951-1111](tel:052-951-1111)